

無知

単に知識のないものをいうが、自分とその周囲にあるものだけが存在し、まったく違った価値判断があるとか、かつてあったとか、現在であっても自分の周囲以外のところでは違うかも知れないということを想像すらできない連中のことを言う。(この文章を書いたのは、ひとつにはコンピューターを教えてくれた連中のあまりの常識の無さにある。また別の理由が、ある病棟の看護婦の反応がある。これについては稿を改めて書く予定である。) こいつらが大きな声で言うから、知らない人はなぜか信じ切ってしまう。……・・いくつもある。

まず、宗教に狂っている、連中がそうである。一般に「狂っている」と判断できる人は宗教にはまらない。

声高に一方的な意見をいうのがいる。(アンタのことや、と言われたことがあるが。その詮議はともかく)朝日新聞がそれで、品性のない日本語で、と書く。「南京大虐殺はなかったとか従軍慰安婦はいなかった」などと美しくない日本語でわめく連中が増えて、云々。(念の為、小生は朝日新聞のことを全く信用していません。)新聞は誤謬がないものと信じている人もあるが、当日か前日のできごとを報道するのに、間違えないはずがない。詳細な背景を描写できるわけもない。週刊誌でさえ、数日の猶予があるのに、調査しきれずに訂正記事を書いている。新聞にはないと思いきわ方がおかしい。おまけに新聞は訂正記事すら書かない。アエラという週刊誌は朝日系で、翌週号によく訂正記事が載っているらしい。ある人が、「そんなに訂正ばかりするのなら、一回、訂正記事だけで〇月〇日号をつくったら……」

割り箸の話。女優かタレントか知らないが、自分用の箸を持ち歩いていて、割り箸を目の仇にして騒いだことがある。木材資源を守れというわけである。……そんな無茶な。そういえば

同じようなことを言っていた外人タレントもいたか。

大きな木（丸太）を切り刻んで箸をつくるわけではない。この人の家には四角い柱がないのだろうか。箆笥も持たないでか。どんな家にすんでいるのだろうか。割り箸は、立派な廃材利用で、木のことをいうなら、箸を洗う水はどうするの？ 日本人は、平和と水はただで手にはいると思っていると揶揄された時代があるが、四国の高松などでは慢性的に水不足で、できれば食器も使い捨てにしたいくらいではないか。それこそ新聞を読めばいくらでもその情報が入手できるのに、頑なに自分と反対の意見の報道を無視するのが理解できない。木を育てようとして下枝をおとしていると、「おばさん」が来て、自然破壊だと言う。物事の理解もなく、誰かの洗脳に過ぎないのだが。山本夏彦さんがパクパクと呼んだ、単なる鸚鵡返し。P K O 反対と叫んで、戦争に加担することになるから反対だという「おばさん」がいて、ではP K O とはなんだと問うと知らないという。サッカー・ブームはいいが、「熱狂的な」サポーターにオフサイドを知っているか？ ……知らないだって！ せめてルールを知って観戦せえ。この手の「説得力のない話」は山ほどある。

「病院はここまで病んでいる」の特集で、ベテランの小児科医がわが子を死なせたと同じ病院の脳外科医を訴えているというのがあって、そんな無茶な！ 自分だって（裁判になるかも知れないと）危なかったことがあったやろうに……

医療ミスなど日常茶飯事で、余程でないかぎりはとりあげなくなってきた。亡くなったあるいは植物状態になって、しかも説明で聞いたことと異なるからもめる。輸血の血液型のミスは患者や家族が気づいて発見されるのが多いから、ミスを隠せない。なかにはひどい家族があり、わたしが指摘しなかったら死んでいた、と300万円よこせというのものもある。

患者には「知る権利がある」……正論で、それでも「あと1日の命です」と宣告されたら、一体何をしようとするだろうか。

「知らなくていい」権利もあるのではないか。

先日見た本。「医者と看護婦の会話」の内容を説明して書いてある……・わざわざ、こういうことをしてはいけない、と看護学院の学生に言ったところである。自分の専門のところならともかく、門外漢なら謙虚に教えを乞えばいい。市場で仲買人同士が符丁で会話をしている。これに割り込む必要はまったくない。割烹で、お愛想（アイソ）、寿司屋でガリ・ムラサキ・アガリ。通を気取っているらしいのだが、前記カタカナ字は店の人間が使うもので、客がすりよって機嫌をとる必要は全然ない。同じく、医者と看護婦の会話に患者や家族がその世界の言葉ではいっていく必要はまったくないし、下手に間違えて使うと……・小生などとくにそう思うのだが……・単なるバカ。英語や独語で話を聞いて、わかったつもりになるよりも翻訳させればいいのである。仮に英語やドイツ語を理解できる人が聴いても、その言葉の本来の意味と異なって使っている可能性もある。

1999.05.23.